

尾瀬ネットワーク通信

2007年5月20日 VOL10. 2(31) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

早ければ7月中にも告示

～尾瀬国立公園（仮称）～

2006年度における尾瀬をめぐる主要な出来事といえば、なんといっても「尾瀬国立公園」（仮称）構想の具体的な進展であろう。

単独国立公園問題

尾瀬国立公園（仮称）が2007年7月中にも実現する。

さる3月20日、旧田島町において環境省関東地方環境事務所（さいたま市）が、尾瀬単独国立公園問題で地元説明会（群馬県側は22日）を開催し、環境省として初めて計画の素案を提示した（磯部副理事長と高橋が出席）。その内容は次のようなものである。

1) 尾瀬の「公園区域」は指定以降、70年以上も一度も見直されていない。全般的な見直しが早急に必要である。

2) 昭和46年の「自然公園審議会」において会津駒ヶ岳地域および田代山・帝釈山地域を国立公園に編入すべきと答申。会津駒ヶ岳および田代山・帝釈山の国立公園区域拡張は、長年の懸案事項であった。

3) 「尾瀬地域」の分離・独立により、以下のような効果が期待できる。

自然環境保全上の効果

・区域拡張と適切な保護規制による動植物・生態系の連続性の確保

・わが国の自然保護のシンボルである「尾瀬」の更なる位置づけの高まり

ふれあい体験の場としての質の向上

・「尾瀬」としての一元的かつ高品質なふれあい体験の場の提供

・一元的管理による効率の向上、管理の強化
地域振興・活性化

・「尾瀬」としてのブランドの強化

・地域振興等による地域経済への波及（効果）や住民意識の向上

4) 今後の検討の流れ

環境省素案（関係機関との調整） 環境省原案（パブリックコメントによる国民からの意見聴取） 環境省案（自然公園審議会に諮問）
告示

単独国立公園化で環境省に申し入れ

これに先立ち、尾瀬を守る会（本会など4団体加盟）は2006年9月、単独公園化に向けてまず尾瀬の環境整備を急ぐべきだと同省の富岡自然保護局長に文書で申し入れ、同年10月20日、鍛冶国立公園課長に面談した（椎名事務局長、高橋、他の団体の2名出席）。おもな申し入れ事項と回答はつぎのとおり。

1) 尾瀬沼、見晴、山の鼻等のゴミ処理をどう進めるのか。

「可能な限り早急に撤去する方針だが、なにぶんにも膨大な量でかなりの費用が見込まれるため、時間がかかるのは止むを得ないと思う」

2) 至仏山東面登山道の整備を急げ。

「（国立公園課長に就任してすぐ）燧ヶ岳と至仏山を登ってきた。どちらもかけがえのない名山であり、保護が必要なことをあらためて痛感した。ただ、至仏山については所有者の問題から環境省の立場もあるので理解してほしい」

3) シカ、クマ対策をどうするのか。

「シカについてはすでに予算が付いて調査を進めているが、クマについても19年度予算要求に盛り込んだので、まず調査から着手したい」

4) 単独公園が実現したら、会津地域自然保護に必要なマンパワーをどのように確保するつもりか。

「檜枝岐の皆さんに協力をお願いしたい。それにより地元の人たちの尾瀬に対する愛着もいっそう深まり、よりよい自然保護につながるものと思っている」

(高橋 喬)

(本稿は4月28日の総会における理事長あいさつに基づいています)

2007年度尾瀬自然保護ネットワーク 総会、無事終了

2007年4月28日(土)13時より大宮ソニックシティ9階会議室で行われた総会は、出席者24名、委任状32名をもって議題を全て審議し定刻終了した。

総会議案は次のとおり。

1) 開会宣言・議長・議事録署名人2名選出
(椎名)

- ・議長...高橋 喬
- ・議事録署名人...伊藤アケミ・前田佳胤

2) 挨拶...高橋理事長

3) 06年度活動報告

4) 06年度会計報告(大橋)

5) 06年度会計監査報告(深山)

6) 来年度役員候補

2008年5月31日選任新理事候補
円谷光行・初谷 博・前田佳胤の3氏

7) 07年度活動計画(案)

8) 07年度予算(案) (大橋)

9) その他

06年度各報告、07年度活動、予算案等は出席者全員異議無く承認されました。

緑の地球をまもるために

(財)緑の地球防衛基金 第1回研究・活動報告会
テーマ:地球温暖化防止にむけて

主催 (財)緑の地球防衛基金

後援 (株)オーエムシーカード

日時 平成19年4月14日(土)午後1時

場所 池袋 桐杏学園会議室

発表概要

総合司会 杏林大学教授 武見 季子

地球温暖化防止に向けた国内外における

活動の記録 FoE Japan 瀬口 亮子

京都議定書後の新たな枠組み策定に向けた
ナイロビ会合に出席、ドイツにおいて再生可能
エネルギー促進の事例調査を行いました。国内
では、化石燃料に依存したライフスタイルから

の脱却を普及啓発する「化石燃料恐竜」キャンペーンを実施しました。

オゾン年に考える、オゾン層問題と地球温暖化

ストップフロン全国協議会 西園 大実

2007国際オゾン年へ向けて、DVDや紙芝居などの新たな啓発をスタートしました。折りしも国内ではフロン回収・破壊法の改正が決まり、建設業界を交えた新たなフロン対策枠組みづくりをめざして、シンポジウムなどを積極的にコーディネートしました。

至仏山東面登山道利用の実態調査10年

尾瀬自然保護ネットワーク 永島 勲

尾瀬自然保護ネットワークは、会発足の平成9年から毎年定期的に東面登山道の調査を行い、調査結果を関係機関やマスコミ等に公表して警鐘を鳴らしてきました。10年間の調査をふりかえり、至仏山登山道の現状と課題について調査結果をもとに報告しました。



講演する当会理事 永島 勲氏

総括

桐蔭横浜大学特任教授 涌井 史郎



総括講演する涌井氏

地球温暖化防止に向けた素晴らしい研究・活動報告会でした。地球温暖化防止活動や、オゾン層問題などそれぞれの発表者は専門知識を生かした巧みな話術で聴衆を引きつけましたが、最後の報告者として、壇上に上がった当会理事永島勲氏は、同じく当会理事の磯部氏が操作するスライド映像とぴったり呼吸の合った講演で至仏山登山道の現状を判りやすく説明し会場の聴衆を魅了しました。

惜しむならば永島氏の発表講演のあと、終了までの時間が無く質疑応答で至仏山の問題をさらに強く聴衆に印象付けられなかったことでした。

なお、当会からは講演された永島氏のほか、高橋理事長をはじめ多数の役員および会員が出席しました。

2007年度群馬側活動計画の一部変更について

群馬側入山指導・清掃活動及びシカ調査の一部変更

群馬側 担当理事 清水 博之
シカ調査担当理事 坂本 敏子

07年度総会で発表した群馬側活動計画の日程を諸般の事情により、その一部を下記のように変更いたします。

記

- 第1回 6月8日(金)～10日(日)
6月8日(金) 17時までにプチホテル「アップル」に集合 (宿泊「アップル」)
6月9日(土) 日中、並木駐車場・鳩待峠・山ノ鼻・において入山指導、清掃活動 (宿泊「山ノ鼻小屋」)
夜間、シカ調査
6月10日(日) 午前中解散
シカ調査のみ参加の方は、16時までに「山ノ鼻小屋」に集合して下さい。
- 第2回 8月31日(金)～9月2日(日)
8月31日(金) 16時までに「尾瀬ロッジ」に集合(宿泊「尾瀬ロッジ」)
夜間、シカ調査
9月1日(土) 日中、尾瀬ヶ原各所において入山指導・清掃活動 (宿泊、下田代十字路)
9月2日(日) 午前中解散
申し込みは清水(027-361-8055)
坂本(043-250-4882)

第1回の期日が間近いため、出来るだけ早くお願いします。

なお上記以外の2007年度活動計画は変更無く、前号(尾瀬ネットワーク通信 Vol10 1(30))に記載したとおりです。

尾瀬自然保護ネットワーク 福島県キャンプ協会 共催 雪と遊ぼう 活動報告

平成18年5月、春季研修会が群馬県戸倉と福島県檜枝岐で開催され、その中の「ブナ林観察会」終了後、毎度おなじみの和気あいあいとした雰囲気の中で高橋理事長が「冬の研修会」はどのようなか?との発言を受けて福島県キャンプ協会の行事「雪と遊ぼう。」を提案したところ、早速ご承諾を頂きました。

2月17日、電車、バス、マイカーで参加者が磐越西線猪苗代駅前に到着。今冬は暖冬の影響で「イエローフォール」も小さく、「しぶき氷」も期待できない状況でしたが、2月15日に待望の降雪があったお陰で、「しぶき氷観察会」も雪孝一氏の案内で「だんご氷」「ハスの葉氷」を見ることができました。雪と強い西風と猪苗代湖が造り出す不思議な芸術に皆様、一様に驚きの声とともにカメラのシャッターを切っていました。



猪苗代湖の「しぶき氷」

翌18日マイカーに乗り合わせ裏磐梯スキー場へ。全員スノーシューを持ってリフトに乗る。スキーと異なり降りるときは気を使う。最年少は6歳、大先輩は昭和一ケタ生まれ、期せずして三世代交流の会となり、リフトの係員も「立ち上がった左に移動して」と大きな声を掛けてくれる。リフトを2基乗り継ぎスキー場の頂上へ到着。スノーシューを履いて元気に出発。「エイ・エイ・オー」
歩き始めて10分ぐらいで銅沼。この銅沼を横

断すると、緩やかな雪原の向こうに白い壁となっている磐梯山の威容が見える。雪原に差し掛かると、右手斜面に蒸気が上がり風向きによっては硫黄の臭いが鼻を刺激して活火山帯であることを実感させる。

急斜面を登りきると大きな岩がゴロゴロしている所に出、10分少し歩いて「イエローフォール」に到着。暖冬と少ない雪で迫力がやや落ちた景色となったが皆さん熱心に「パチリ」写真撮影。ここで持参した弁当で楽しい昼食のひとつを過ごしたあと、帰り道は往路とは別のコースをたどった。積雪のある冬季だけのコース。

途中の急な斜面はお尻で滑り降りたが、皆さん最初はびくびく・ドキドキ。だんだん慣れてくる



イエローフォールの前にてと歓声を挙げて滑り降り「雪ダルマ」になっても大喜び。・・・皆さん満足？してくれたかな。



「雪と遊ぼう」

今回は尾瀬ネットワーク関係12名、一般参加10名、福島キャンプ協会関係9名の総勢は21名の賑やかな行事となりました。

子供たちに元気づけられ、参加者全員がトレッキング中の安全に心くばりをして頂いたお陰で無事終了。

三世代交流トレッキングは参加者全員のご協

力があり大成功でした。深く感謝します。

「雪と遊ぼう。」担当 松前 雅明

役員就任にあたり

前田 佳胤

今期の総会において、ネットワークの指導員として知識・経験の浅い中、次期理事の大任を頂いたことを重く受け止め緊張しております。

「今ある自然環境を今以上に悪化させることなく、できれば少しでも改善して次の世代、その後の世代に引き継いでいく事は、今を生きる私たち世代の責務である」というのが私の思いです。

昔の計画通りに実行されていればダムの下になっていたであろう貴重な財産尾瀬、先人の労苦に守られてきた尾瀬、この地が今まさに壊れてきている実態をしっかりと見据えて、入山指導、ゴミ拾いあるいは環境破壊の実態調査等出来ること。小さなことからコツコツと取り組み、尾瀬の置かれた状況を観察する必要があります。

そして日本自然保護協会や尾瀬高校を始めとした諸団体との連携・協力の強化等尾瀬を守る為の検討課題は沢山あると考えます。何が出来るのか、何処から手をつけるのか、今までの活動を踏まえて、先輩諸氏のご支援・ご指導を仰ぎながら責務を全うできるよう微力を尽くしたいと思いますので宜しくお願い致します。

2007年度会費納入のお願い

会計担当理事：大橋 文江

会員の会費収入は会の財政を支える基本をなすものです。まだ、2007年度会費を未納の方は出来るだけ早く同封の振込用紙により、会費を納入して下さるようお願いいたします。

年会費：3000円

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

http://www.geocities.jp/oze_net/

理事長 高橋 喬
事務局長 椎名 宏子
編集担当 島上 健
HP 担当 東雲 明



